

雪氷写真館④ 中越地震と 2005 豪雪の複合災害／
Chuetsu Earthquake and 2005 Snow Hazard Coupling



写真 1 全村避難が続く山古志村（現長岡市）で、豪雪に耐え切れず押し潰された家
（右上 2005 年 1 月 29 日，中央 2005 年 2 月 12 日，左下 2005 年 4 月 29 日撮影）。



写真 2 地震で傷んだ斜面で起きた雪崩
（小千谷市西吉谷，2005 年 3 月 19 日撮影）。



写真 3 雪解けで再び水没
（旧山古志村木簗，2005 年 4 月 8 日撮影）。



写真 4 3m を超える積雪に埋もれた避難集落。道路は寸断され車ではたどりつけず、かんじきを履いて、雪下ろしに向かう（旧山古志村梶金，2005 年 2 月 12 日撮影）。

中越地震と 2005 豪雪の複合災害

2004 年 10 月 23 日 17 時 56 分，山村豪雪高齢過疎の典型ともいえる新潟県中越地域を，最大震度 7 の地震が襲った。

震災からちょうど 2 ヶ月，12 月 22 日に降り始めた雪は，長期予報・かまきり予想・住民の期待を裏切り，被災地に 19 年ぶりの豪雪をもたらし，震災被災地山間部では 3～4m の積雪となった。

全村避難が続く山古志村や小千谷市東山地区では，雪下ろしに帰宅することすら難しく，家財道具を残したままの住宅が次々と雪の重みに押し潰された（写真 1）。調査中の山古志を含め，250 棟以上の建物が雪の重さで倒壊したことが，これまでに確認されている。

地震と豪雪の複合的な被害は，雪解けの季節まで尾を引いた。植生の剥ぎ取られた斜面での全層雪崩，融雪水の浸透による土砂雪崩*（土砂と雪が混じりあって崩落する現象）が各地で頻発した。写真 2 は，3 月 19 日朝 8 時過ぎに小千谷市西吉谷で発生した雪崩で，作業場を倒し住宅を一部損壊させるだけでなく川を堰き止めたため，写真中央の住宅が床上浸水となった。

復旧の目処の立たない集落は，移転の決断を余儀なくされている。写真 3 は，土砂崩れダムに水没後，ポンプによる排水で一時帰宅が可能となったが，雪解けで再び水没した山古志村木簗（こごも）集落の様子である。

上村靖司 会員（長岡技術科学大学 機械系）

* 土砂雪崩：学術用語として認知された用語ではないが，報道等により既に広く使われつつある。